

会 議 録

会議の名称	平成26年度 第2回豊中市図書館協議会		
開催日時	平成26年(2014年)11月18日(火)19時00分～21時00分		
開催場所	豊中市立岡町図書館 集会室	公開の可否	可・不可・一部不可
事務局	読書振興課 岡町図書館	傍聴者数	2人
公開しなかった理由			
出席者	委員	松田 美和子 杉浦 公男 鶴川 まき 橘高 美那子 舟岡 直子 日下部 雅彦 斉藤 雅美 岸本 岳文 村上 泰子	
	事務局	足立教育次長 堀野岡町図書館長 北風千里図書館長 松井野畑図書館長 須藤庄内図書館長 大原岡町図書館主幹 島津岡町図書館副主幹 西口岡町図書館副館長 永島岡町図書館主査	
	その他		
議題	1 豊中市立図書館中長期計画(豊中市立図書館グランドデザイン)の進捗状況について 2 その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

日時：平成26年（2014年）11月18日（火）19時～21時

場所：豊中市立岡町図書館 3階集会室

出席者：（敬称略）

委員 松田 杉浦 鶴川 橘高 舟岡 日下部 斉藤 岸本（委員長） 村上

事務局 足立 堀野 北風 須藤 松井 島津 大原 西口 永島

開 会

資料確認

委員交代の紹介

●委員長

次第に沿って議事を進めたい。その前に図書館協議会の運営についてご了承願いたい。豊中市では原則協議会を公開しており、本日は2名の方がご入場されている。傍聴については10人の定員としており、希望者が定員を超えた場合、その時の状況を見ながら私のほうで判断させていただくということによろしいか。なお、傍聴の方にはアンケートでご意見をお伺いし、委員の皆様にもお伝えすべき内容についてはご報告させていただく。次に前回の会議録については事前に送付されたものに委員の方々のご意見はなかったので、公開の際にはお手元の記録と同じように、概要として発言者については個人名を掲載せず、「委員」とのみ表記することをご了承いただきたい。

早速、議題に入らせていただく。

議題は、「豊中市立図書館の中長期計画、豊中市立図書館グランドデザインの進行状況について」の他、事務局より追加のあった9月に公表された仮称南部コラボセンター基本構想に関連したグランドデザインの取組みについて、を議題とする。では、事務局に最初の議題についての説明をお願いします。

●事務局

グランドデザインの進行管理についてまずご報告させていただく。

お手持ちの資料1「豊中図書館の中長期計画（豊中市立図書館グランドデザイン）進捗状況一覧表」は、資料3「平成25年度版豊中市の図書館活動」の中で市民に向け、主たる部分を提示することができた。

前回、内容そのものではなく形式をお示ししてご意見をいただき、委員の皆様からは、より具体的に、簡潔にまとめること、優先順位を明らかにする、実施年度を明記し実効性のあるものとするといったご意見をいただいた。これらの意見を踏まえ作成したのがこの資料1「進捗状況の一覧表」であり、基本となる「図書館の使命と理念」、グランドデザインの関係を表す「概念図」、主に市民に掲示していく「4つの目標進行管理報告書」、「28のプラン」の4つから構成されている。

具体的な取組みである28のプランについては昨年度の振り返りを職員間で行い、副館長や分館の施設長を中心に昨年度の課題や達成度、さらには今年度、どこから取り掛かるか優先順位の記入を行った。概念図に関しては28のプランを目標の1から4までと、それらを支える0の5つに分け、関係性を明記している。

たとえば4つの目標の2、「市民の利便性を向上させ…」に対応するプランは⑰～⑳であるが、達成できたかを知るためにさらに優先順位の高い取組みとして⑰、⑱、㉑をピックアップしている。これらを達成できたか

どうかによって昨年度の状況を把握しようと考え、具体的に取り組んだ事例を明記した。

グランドデザインは平成26年度から10年間という予定であり、現状を踏まえてスタートするために平成25年度の現状把握として、進捗状況一覧にまとめた。本来なら年度末になった時点で振り返り、次年度目標を持ってスタートすることを目指すものなので、今年度については年度末なるべく早い段階で進捗状況の把握を開始し、翌年度に速やかに公開し事業に取り掛かる予定。以前示したものと体裁を若干変更したので、改めてご報告をさせていただいた。

また前回多数の取り組みがあるので、全体を見渡す長期的な工程表があったほうが良いというご意見をいただいたので資料2「グランドデザインの工程表(案)」を作成した。工程表(案)の中では実際に何年までにこの事業の取り組むと示しているが、これについてはまだ内容としては未確定であるため、形式についてのご意見をおねがいしたい。

●委員長

今、説明のあったグランドデザインの進捗状況一覧表と工程表について意見質問をいただきたい。ご発言は挙手していただき、私のほうからご指名するのでマイクを使っての発言をお願いします。

●委員

大前提として優先順位という言葉が非常に重要な言葉になってくるが、ここで優先順位＝重要度では無いということを確認しておいたほうが良い。重要度であったり、緊急度であったり、取り組むために必要な時間であったり、コストであったり、総合的に勘案して、取り組みの優先度が判断されていると思うが、この進行管理報告書をそのまま読むと優先順位＝重要度と捉えられてしまう心配がある。ここでいう優先順位とはこういうものだ、というものを書き添えていただくと誤解を生まずに済む。

●委員

たとえば、職員の養成とか採用は重要度が高いと思われるが、この中ではDという位置づけなので、違和感を持つ方がひょっとしたらおられるのではないかと。

●委員長

事務局として優先順位を決めた時の基本的な考えを説明してほしい。

●事務局

限られた人材と予算の中で、取り組みが28もあり、これをどこから取り掛かっていくのか、9館の施設長副館長で実際に一つ一つの取り組みについて、今の段階でどれを優先的に取り組むか、後に取り組むか、と検討し、今年度における優先順位を設定した。なかにはすでに市全体の計画の中で、市民にも優先的に取り組むと公表している取り組みもある。先ほどおっしゃったように様々な状況を判断して、現場の館長たちの意見も集約したうえで、どこから取り掛かるのか考えた。例えばブックプラネットや学校図書館に関してもあまり優先順位が高くないのは、基本的に現状で一定の成果を上げているものであり、そのまま継続維持するという考え方である。

ご発言いただいた通り、そのまま読んで大事な取り組みなのに優先順位が何故低いのか、明確にしていけない中では誤解を招くと思える部分もあり、そこは表現方法を見直したい。

●委員長

全体が平成 35 年度までの 10 年間の計画という中で現時点での様々の報告を踏まえた上での優先度ならば、それが解るような説明がどこかに欲しい。工程表でそうした事業の重要度を表現する方法もあると思うが、その点も含めて優先度＝重要課題という受け止め方がされないような工夫をお願いしたい。他にご意見はないだろうか。

●委員

今日は形式について、ということで、内容にはふれないということか。

●事務局

工程表については形式だが、ご質問いただいた取り組み内容についても本年度中には、内容も含めた形で提示させていただきたい。

●委員

表記について、課題の項目のところで「必要があります」、「必要となります」等、似たような書き方が多い。「継続して検討課題になっています」とか「活用をさらに進めることが課題です」など、課題とサブタイトルに書かれているのは解って読んでいるので、言葉の重なりに気を付けてほしい。

また事例の捉え方だが、ここに書かれている事例というのは沢山の中のたまたまこれが事例なのか、それとも取り組みのプランの中の大切な部分と解釈したら良いのか、わかりにくい。事例というのは普通、「例えば」という風に使うので、そこをもう少し明確にしたほうが良い。さらに、4つの目標と28のプランの表記にも同じような箇所があり、その表現を揃えたほうが良い。

●委員長

一つは表現の問題。課題のところは考慮したほうが良い。後、4つの目標を更に個々に説明するのが28のプランであるという関係をきちんとどこかで説明しておいたほうが良い。

●委員

もう一つ例えば、資料1の中の「グランドデザイン4つの目標進行管理報告書」にあるプラン⑧「ICタグ導入により蔵書点検期間の短縮が一定期間可能になった」という表記の場合、具体的な短縮の内容を知りたくなる。他にも、目標実現を支える0の優先的な取り組みであるプラン⑨「体系的な研修の実施」の「研修での学びを業務にフィードバックするよう努め、「危機管理研修」の実施やビジネス関連講座の開催につなげました」の部分については会議の時とか、いろんな機会を設けてフィードバックするよう努められたと思うが、もう少し具体的に書いたほうが良い箇所があった。

●委員長

これを読んだ人に伝わるものにしておいたほうが趣旨が生きてくる。多分、評価というのは図書館だけではなく、これを見て皆さんが図書館の取り組みをどのように理解してくださるか。読まれる方、市民の立場にたって、この進行管理報告書を作っていくべき、というご指摘と受け止めたので、そういった工夫をお願いしたい。その意味ではこの28のプランの中で書くというのも一つの方法ではないか。

他にご意見等はあるだろうか？主に市民が目にするのは（図書館活動にも掲載している）4つの目標進行管理報告書の3ページまでと思われるので、そのあたりの表現の工夫を考えていただきたい。

工程表（案）について何かご意見はあるだろうか？

●委員

工程表（案）は、具体的で良い印象を持った。ただ、10年間の長期計画、10年間かけないと達成できないものもあると思うが、これだけ見ると、一年間実施後継続して後ずっと同じことをしていることが多い。10年後にあるべき姿に向かって着々とやっているのだったら、そのあるべき姿を10年後に示してそれに向けてこの年にはこれをやっていくという形にしないと、わかりにくくなる。

●委員長

今のご質問だと、グランドデザインの中で機能を完了するものもあるだろう。それらを解るようにしておき、28のプランの中でこの時点ではこのプランに力を入れよう、ここでステップアップの事業を行うなどがあって初めて、時系列で表した工程表に意味があるのではないか。

●事務局

この工程表（案）については、こちらの表現が及ばない部分があった。同じことを10年繰り返すのは、図書館を取り巻く環境や、読書活動の状況がどんどん変わっていく中で変えていかなければならない部分もあるので、メリハリをもって、これは完了、この年度は優先度をもってこれに取り組む、ということがこの表の中で解るように、もう少し動きのある表現を検討させていただく。

●委員長

せっかくの10年の計画なので、いかにステップアップしていくということが求められる。そのことを計画の中に組み入れた形で、進めていく、管理していく、ということが重要だ。時系列の中できちんと把握できる事柄を明確に示していく、それを解りやすくする工夫をお願いしたい。

●委員

28のプランは、前回もすごく多くて大変だという話があったが、プランを具体的にしていくタスクフォース（特別チーム）はあるか？これらを万遍なく同じフロー（工程、流れ）でやっているのか。例えばICTの活用では、電子書籍の専門的知識も必要だと思うが、チームを作って、それに関する人材を他から入れて、その場でプランを作っていくなどが無いと実際には難しいのではないか。そういう予定はあるのか？

●事務局

今のところタスクフォースとしてチームを事業ごとに立ち上げる予定はない。電子書籍に関しては一部広域の近隣の市町村と一緒に電子書籍に関する研修会などを行って情報の共有を進めている。実際のところ単独の館での導入も難しく、電子書籍の動向もまだ先の読めない状態で例えば「コンテンツ（内容・中身）」の数の課題などもあり、今すぐに研究のグループを立ち上げて外部からの先生を招いてということではない。現状では優先順位をつけた段階なので、専門的な知識の必要なものについてはその都度ご相談させていただく形になる。

●委員長

基本的に図書館という組織の中で、どう進めていくかということをお問われており、組織の中でどう取り組みの体制を整えていくか、図書館だけではなく、事務の方々、利用者、それぞれの分野の中で専門家の意見、またこうした方々の考え方を取り入れていかないと十分なものになっていかないだろうし、それが図書館の課題になるだろう。ぜひその取り組みを図書館としてもかんがえていただきたい。最後のところに出てくる医療関係の課題解決と同じで、こうした図書館だけで取り組めないことに専門家が加わって初めて図書館サービスというものにまとまってくる。図書館は図書館員、市民、専門家などの結節点、もしくは交流点としての働きがあり、これは図書館の強みであり、これを生かしていく上でも、今の指摘は大きな意味がある。

●委員

工程表（案）の書き方に関して。28のプランは4つの目標に分類されているのではなく、4つの目標と目標を実現させるプランからなりたっている。このためこの工程表（案）に当てはめていくと入り組んでいて解りにくくなっている。全体が実現を進めていくプランとなっているが、はっきりと4つの目標と表示されているのに、そこに入る項目と入っていない項目とがあるので、この点を市民に解りやすくしたほうがよい。

●委員長

最初に概念図が示されているが、どう進んでいくのかが工程表（案）を見ても分かりづらい。少なくとも概念図として示すのであれば、これに沿った形で工程表が示されているほうが理解しやすいはず。

本来は、基本となる28のプランが4つの目標に当てはまると意識して、グランドデザインは構築していない。大きな4つの目標を出して、それに向かって図書館としてすべきことをプランとして28洗い出してあり、ご指摘の通り4つの目標に入らないものもある。しかも、28の取り組みがそれぞれ具体的なものから、少し抽象的な、人材育成等幅の広いものもあり、事務局としてもこのへんが苦労したところだろう。

工程表（案）はグランドデザインの1から28をそのまま並べたもの。表の中で何か工夫したほうが良いと、考えている。

それによって、図書館の思い、将来への取り組み努力が具体的に解ってもらえるものになるはず。市民にとって将来こんなことができるということが具体的にわかるほうが良い。図書館活動という報告書と、この工程表はその図書館の将来図が解ってもらえるポイントであり、そのための努力工夫がこれからも必要ではないか。

●委員

継続実施や優先順位によって矢印の幅を変えてあるとのことだが、よく見ないとわからない。他のやり方はないか。工程表（案）のB.「職員の組織」の列、28のプランの行の5「職員の役割分担」のところで、平成27年度に自動化による業務の見直しと書いてあって、そこが無記入、おそらく「継続実施」という言葉が入ると思うが、矢印のところは何も入っていない。もう一か所、27「図書館サポーター」も無記入。ここも「継続実施」の言葉が入ると思われるが、それでよろしいか？

●事務局

内容がまだ確定していない状態で、決めきれていない部分があり27「図書館サポーター」についても、実際の進行はこれからの状態なので、内容に関しては未確定、したがって空白にしている。役割分担の見直しについても、今年度後半からで、以降の予定については明確ではない。もう少し討議が必要で書ききれない部分もあり、今回についてはご容赦いただきたい。

●委員

であれば、空白にせず、「未確定」とすればよい。

●事務局

了解した。

●委員

工程表は色刷りにできないか？もう少し表現力がアップするかと思う。

●事務局

データは色刷りで作成している。カラープリンターがあるので、次回よりそうさせていただく。

●委員

先ほどの矢印の線の幅も色つきなら工夫できたのでは。そういった意味でも工程表を工夫していただきたい。

●委員長

最初の議題、グランドデザインについて他にご質問は？

●委員

工程表にある優先順位＝重要度では無いのか？

●事務局

最初のご指摘のとおり、さまざまな状況を踏まえての、28のプランの中での優先順位ということ、優先度＝重要度ではない。これからは明記する。

●委員

資料1「28のプラン」のB職員a組織の⑦【館ごとの目標設定】項目（←表の中でも本来はプランと統一すべきでしたね）、【平成26年度の予定】の中で、「特色ある図書館サービスを行っていきます」とあって、次に「地域のニーズを反映して図書館ごとに施設の在り方を反映した目標を設定する（平成27年度予定）」とある。「目標の設定」と「特色ある図書館」ではどちらが先なのかわかりにくい。普通、目標が先に設定されていて、それに向かい図書館サービスを行うと考えるが、ここはどういう意味だろうか。

それから⑩【地域で必要のとされる資料の提供】項目で医療やビジネスなどの課題解決のチームと連携しながら資料を集めてきたとのことで、各館での利用動向をしるため、26年度の利用実態を分析するとある。課題解決関連の資料の収集というのは市販のものだけではなく、様々の自治体が発行する資料も収集されると思うが、収集と提供がワンストップでできているのかそういうことを意識し努力願いたい。

もうひとつ医療や教育の情報を収集しようとグーグルで検索ワードを入れれば情報は出てくるが、市のHPだと出てくる順番もバラバラ、細かい設定ができないし、メタデータのようなものがついているようにも思えない。何年以降のものがアップされているかもよくわからない。図書館というのはスムーズにそれらを提供していくのが役目だと思うので、検討していただけたら。これは希望。最初の疑問について説明をお願いする。

●事務局

⑦【館ごとの目標設定】項目の【平成 26 年度の予定】は確かにわかりにくい文章と思われる。実際は職員が当該地域に出向いて地域の方々のお話を聞き、「特色ある図書館サービス」の実施を探りながら、地域のニーズを把握する努力をしているところで、それについての記載の部分となっている。目標設定に関しては「図書館の使命と理念」を基本に、組織全体、あるいは個々の職員の職務状況で、年度初めに機会があるが、各館ごとではない。平成 26 年度中に各館ごとに、地域ニーズや特性を踏まえて施設のあり方の方向性まで反映した目標設定は困難なので、(27 年度予定)と記載した。「地域のニーズに応じる」という目標設定からするとわかりにくいので、ご意見を反映して叙述を改めたい。

●委員

市の行政関連の資料は図書館に全て来るシステムはできているのか？

●事務局

各館、市政情報コーナーという位置づけであり、情報公開として市各課の資料が図書館に集まっている。チラシよりはリーフの類が揃っている。

●委員長

刊行されたものは各図書館にも来るということか。そうしたのではなくて、行政業務データの情報は統一的に把握している所があるのか？多分、無いのでは。であるなら、図書館がこの行政業務の資料を収集整理して提供することも図書館の持つ力ではないか？よそではやってないと思うので、是非、豊中の図書館でやっていただきたい。

グランドデザインについて他にはないか？

それではグランドデザインとも関連するが、仮称南部コラボセンターの基本構想について事務局から報告をお願いする。

●事務局

グランドデザインの 4 つの目標の 3 番目に「南部コラボ構想の検討」という記載があることからこの場で報告させていただく。資料 7 「(仮称) 南部コラボセンター基本構想」は平成 26 年 3 月に完成し、夏に発行された。資料 6 「広報とよなか 10 月号」でも南部コラボ構想が特集掲載されており、あわせてご覧いただきたい。

豊中南部とは名神高速以南をさし、庄内駅周辺の賑わいや、大阪音楽大学、ローズ文化ホール、庄内体育館といった文化的な環境が形成されている一方で、南部では人口が減少、少子高齢化が早く進み、若年層の流出、生活保護受給者の割合が高いことなど、様々な課題を抱えている。教育に関しては小学校が各学年 1～2 クラスと小規模化しており。生活面に課題を抱えている家庭の多いこと、また、その子どもたちへの対応についてもこの基本構想で触れられている。南部コラボの着工はまだ数年先になるが、南部地域連携センターが中心になってモデル事業として取り組んでいる。

資料 8 の概要版には 5 つの基本方針というのが記載され、それぞれの基本方針の下、図書館を含む地域全体の公共施設の再編を行いながら、南部地域の活性化拠点として(仮称)南部コラボセンター構想の実現を目指している。さらに南部地域全体をカバーするために南部コラボセンター 1 館だけではなく、そこを拠点として地域に点在する施設や小学校にサテライトというものを設置して、行政、事業者、地域が連携することで、南部コラボ

ネットワークというものを形成する予定である。

10月9日には(仮称)南部コラボセンター基本構想会議があり、(仮称)南部コラボセンター基本構想の概要をもとに南部地域の課題を踏まえて、現在、南部地域で行われているモデル事業の紹介があった。今後、26年度27年度については、児童館、子育て支援キャリアセンター等、様々な拠点施設に関わる出席者からアイデアを出し合うとともに連携協力作りを行う意見交換会議を行う予定。さらに広く市民から意見を出していただく、また、南部コラボのことを知ってもらうために、井戸端会議的な、ラウンドテーブルが何回か実施された。このラウンドテーブルについては資料6「広報とよなか10月号」で詳しく記事掲載されており、これまでに、地域活性化、教育、防犯など、様々なテーマで行われている。乳幼児の子育ての会では、「南部は子育てがしやすい。周りの高齢者が温かい声掛けをしてくれる」という意見の一方で中々子どもを連れて外に出られない、行くところが少ない、子ども連れで飲食できるところが少なくて困っている等、多くの意見が寄せられた。

基本構想の後は、基本方針とビジョンに基づいた機能、事業、施設の具体化、その担い手の調整を行い、来年の3月には中間まとめを実施予定である。

●委員長

南部コラボセンター基本構想の現状について。この構想では図書館がこういった働きをするかが重要になる、図書館の努力、地域のニーズをどう拾い上げるか、重要なポイントになる。

今の事務局からの報告を受けて、ご質問は？

●委員

資料8の概要版の「機能と施設構成」の箇所で、円に分かれて色々な機能を果たす機関が図であらわされており、②図書館と公民館が、「生活、学習等支援拠点機能」ではなく、「交流拠点機能」の位置づけとなっているが、これでよいのか？図書館は社会教育の機能を持ち、学習の支援という大きな役割もある。このように拠点機能にまとめられたのであれば、その説明をお願いしたい。

●事務局

実際に会議に出たうえでの私の印象では図書館は情報提供や学習支援、公民館は市民活動のコーディネートなどそれぞれの事業については事務局のかたも確認いただいている。コラボのなかにどういう施設を入れるかはこれから決めるということで、ご発言のとおり、生活学習支援機能等に何故図書館が入ってないのか、説明不足と思われる。公民館も学習支援の場を提供しており、夏休みには教員志望の大学生に来てもらって一週間のミニ授業を行うとい学習支援機能も果たし、学習支援機能拠点としての活動も始めている。公民館も図書館も色んな人が行きかうので「交流の場」に入ったのではと推測する。一月にも構想委員会があり確認するが、今後は図書館の役割が十分理解されるよう、構想会議等で意見を申ししていきたい。

●委員

こういう刷り物ができると、これがひとり歩きする恐れは十分あるので、しつこいくらい確認してほしい。お願いする。

●委員

今のご意見はほっておけばその通りになってしまうと思う。

ただ、資料7. 本編 25 ページに、武蔵野プレイスを参考に行っているようだが、一体感のある複合施設という

ことで、大きな面積のある図書館のことが書いてある。書架が楽しい施設、人が集う施設の中に書架があるということで、実際に実現すればすごくいいと思う。市民活動をしているものからすれば、図書館は自信を持って意見を言ってほしい。千里コラボとともに南部コラボが出来れば、いよいよ豊中駅前もこんな風にならなあかと、逆に夢を膨らませることになると思うので、図書館にエールを送りたい。

●委員長

丸で囲っている課題の部分を見ると図書館が既に実施していることもある。相談しやすい図書館のカウンターで、資料の提供と一緒に情報提供を図書館が担う。図書館が中核施設にならないと人が集まらない、利用者にとっては使いやすい施設、そういったことも強くアピールしてほしい。他にご意見は？

●委員

本日は図書館の方なので、コラボのことを直接質問する場ではないのかもしれないが、やりたいことは解るが、あるものをまとめたただけなので、こういうものこそ民間企業を導入したほうが魅力あるものになると思う。私は千里在住だが、千里コラボもどこに魅力があるのかと。市役所が一緒になっているだけで、もっと自由な発想でできるはず。民間の力を入れていいじゃないかと、それが私の意見。

●委員長

他にないか？では、(仮称)南部コラボセンター基本構想については図書館として言うべきことは言うということでもよろしく願います。南部コラボセンターを作るということは、施設の整備だけではなく、この施設を核にして南部地域のネットワークを再度構築する。図書館についての南部地域での図書館サービスの再編、ということになっていくので、それを踏まえて、サテライト機能を持たされる高川図書館について事務局のほうから説明願う。

●事務局

(仮称)南部コラボセンター基本構想の報告書にもあったが、一館の施設建設だけでは南部エリアをカバーしきれないので、学校や公共施設がそれぞれサテライトという位置づけになっている。基本構想本編 22 ページに小学校中学校の他に公共施設があり、四角に塗りつぶされているものがサテライト機能の位置づけの公共施設であり、高川図書館がサテライトという位置づけで明記されている。コラボセンターの完成にはまだ時間がかかるが、庄内公民館を中心に様々なモデル事業が進められており、建物が建つ前に事業の担い手やネットワーク作りが先行して始められている。一方、図書館においても分館の在り方について見直しを進めてきており、南部地域の課題の洗い出しもできていることから、まず、高川図書館の多機能化についてこれから一年半かけて検討する予定となっている。

高川図書館は占有床面積が1200平米余り、スポーツ施設、介護施設ダイルムの複合施設、図書も9万冊、分館の位置づけではあるが、規模だけでも庄内図書館をカバーする大きいものとなっている。来館者は一日約450人、映画会を開催する部屋、集会室もあり多機能化への可能性も高い。このスペースと図書館の資料情報提供機能を生かして、行政他部局や地域NPOとの連携によって様々な課題解決の取り組み、例えば、学習支援、就労支援、子育て支援、どれをやっていくかをこれから議論していきたい。南部コラボセンターができる前に前倒しでサテライトとして何かできないかを検討中であり、協議会や南部コラボセンター基本推進会議と連携をとりながら、高川図書館の多機能化を進めていきたいと考えている。南部の図書館については次の機会にご意見をいただくとして、今回は高川図書館の多機能化について、ご意見をお伺いしたい。

●委員長

南部地域全体を見渡した上で高川図書館の在り方、サービスの改変というのが課題となってきた。それらを見通したうえで、高川図書館へのご意見を伺いたい。

これについては予算措置等がされているわけではないのか？

●事務局

今年度と来年度でどういう形にしていくか概念設計を行い、機能変更があり予算が必要であれば、その時点で予算要求することになる。南部地域連携センターの方から高川地区でも同様のモデル事業を行ったらどうか、とご提案をいただいている。例えば来年度には南部地域連携センターにノウハウを提供してもらい、乳幼児と保護者対象のモデル事業を高川図書館集会室で行ってはどうかと提案いただいている。先行事例として南部地域連携センターの方と一緒にやっていく、それは建物の構造を変えずにできるので、図書館としてもこれからの在り方について考える一年になるのではないかと。

●委員

例えば、学習支援については場所の提供と人的支援があるのか？

●事務局

公民館でやっているのは地域の方との連携の部分もあるが、夏休みについては若干のアルバイト料を出して、教員志望の大学生に来てもらい、宿題のプリントを指導してもらうため全く謝金がゼロではない。図書館として学習支援をやっていくのであれば、その辺の措置を考えていかなければならない。子どものことについては、図書館として必要性を確認した上で実施するとなれば少し事業費として費用を捻出できるのではないかと考えている。

●委員

学習支援、例えば算数教室をやる、国語教室をやるというのも一つの方法かとは思いますが、形を変えて、子供が学校で学んだことを図書館で更に深めるとか、解らなかった部分をもう一度調べるとか、そういうことで学力が上がることもつながっていくと思う。学校と図書館はハードでつながり、リクエストした本のバッグが図書館から学校に届いてはいるけれども、もっと違うスタイルでつながっておれば図書館に行けばもっといっぱいあると、子どもが行くように努力する、それはブックプラネット事業の違うスタイルのもので、学校と図書館が連携できるもの考えることで、子どもが自分で図書館にレファレンスをかける、そんなことを思った。

実はこれは昔、学校図書館に司書が入ったころ、資料は前もって用意してもらえるよう先に連絡しているが、実際には子どもが直接司書さんのもとへ行ってレファレンスするという姿があったので、そういうのに立ち返りたいという思いがあった。そういう風に学校と図書館とがつながって、図書館が突出して何かしてアピールするのではなく、学校と図書館が連携することが子どもの学力につながったらいい、初心にかえるみたいな話になるが、そう思った。

●委員長

大事な指摘と思われる。図書館でやることの意味を図書館が付加価値という形でつけていく、それは図書館だけではつけられない。アメリカの図書館ではホームワーク、宿題を子どもたちが図書館でやる。ボランティアが何

人か来ていて、時間を決めてボランティアの人がこの科目をみるということをやっている。その時に学校と連携して宿題をボランティアの人がいるので図書館に行ってやってきなさいという形にすれば、より図書館の特性が生かせる形で学力支援に関わっていける。地域の課題、連携は大事だが、それを図書館でやる意義、より付加価値が生み出せるかがポイントだ。

●委員

実はグランドデザインの進行管理報告書も中身について言いたいことが沢山ある。前のグランドデザインの時にも言ったが、図書館だけが地域の課題をケアする主体になると考えすぎない、図書館が支援する側というより協働性、例えばレファレンスで職員に相談する時、誰に聞けばいいのか、専門的な知識を持った職員がいる。相談を受けた時にどこへつなぐかの重要性、その点への意識がもう少し必要だ。図書館だけで課題を解決しない、南部コラボや高川もどうしていくかを考えるときに大事な要素だ。南部コラボの会議では様々な話が出る。アジェンダ、それから市社協、国際交流協会、すてっぷ男女共同参画、これらが月に一度集まって情報交換をしている。顔の見える組織ということがすごく大事で、組織同士の協力が目立つようになってきている。図書館も他の組織と協働するということを意識して明記されたほうが良い。

それから、公共図書館と学校図書館の人事交流がはじまって、図書館職員の他の行政部門との交流も始まっている。なぜ交流するのが文章に出てこなくて、学校図書館の専任司書の方々が公共図書館に来てレファレンス等の業務を学ぶという交流研修の表記はあるが、逆に公共図書館の方が学校図書館に行って、学校図書館の機能を学ぶ研修、多分されているだろうが、記載に関しては一方通行な感じがする。学校図書館と公共図書館の人的交流が双方向な人的配置、組織のありようが必要だ。

●委員長

地域に出て図書館が地域の住民との結びになるということ。肩の力を抜いて、まず高川から地域に行つてという試みから取り掛かっていただければ。今日の話を踏まえて事務局にお願いします。

では、事務局のほうから平成 25 年度の図書館活動及び統計の報告等をお願いします。

●事務局

平成 25 年度の図書館活動は資料③本編と資料④統計・資料編の二部構成。本編前半にはトピックス等があり、後半には継続的な活動報告を掲載。昨年と違う点は本編の 2. トピックスでグランドデザインの説明を、10. 進捗状況で報告している。統計・資料編では 7. 豊中市立図書館評価システムの項目表を掲載しグランドデザインの進捗状況を数値の側面から見るといふ形になっている。

追加で本日配布した 4 点の資料について補足の説明をしたい。

配布したしょうない REK の瓦版「ええやん！しょうない」VOL. 16 は、地域の様々な活動を掲載したものである。しょうない REK は、庄内図書館で地域のボランティアがリサイクル本を販売することで、売上金を地域の活性化につながる催しの実施など活動資金に役立てている。『豊中市の図書館活動』本編の 13 ページにもその活動の説明記載がある。

2 点目の「ブックプラネット通信」VOL. 2 は、ブックプラネット事業に関連する取り組みの中で紹介できるものを掲載している。十二中学校のビブリオバトルや紙芝居読み聞かせの情報が表面に載っており、裏面では庄内幸町図書館が設置している学校図書館支援ライブラリを紹介している。ここには掲載されていないが、ブックプラネット事業の取り組みとして数年継続しているのが「めざせ！図書館の達人」である。これらの報告は資料③

『豊中市の図書館活動』本編 38 ページに掲載されている。「知的探求合戦、めざせ！図書館の達人」とは公共図書館を会場にして子どもたちがチームを組み、テーマを選び、調べ、まとめあげて発表する取り組みである。また、「子ども読書フォーラム」これも毎年継続している活動で、来年1月24日土曜日に、大池小学校を会場にして今回は作家あさのあつこさんを迎えトークライブを行うなど大きな催しがある。今から、あさのさんの作品の中から心に響く言葉を集めるなど、取り組みを始めている。ご都合のつく委員の方には、お越しいただけたら大変うれしく思う。

配布物の3点目、カラー刷りのチラシ「産業フェア」は、11月15日の豊中産業フェアのチラシである。これは図書館の活動の一つ、「暮らしの課題解決支援サービス」で、図書館単独ではなく、各種専門機関や他の部署とつながることで、より一層市民に役立つ情報提供ができるということで、毎年活動を重ねている。チラシ裏面を見ていただくと、ビジネス就労担当者が打ち合わせ等をして、日本一明るい経済新聞竹原編集長を迎え、このような催しに親子連れの方を含めてご参加いただいた。子どもを含め非常に熱心に聴いておられ、講師のかたにも喜んでいただいたと聞いている。

そして、4枚目が同じく「暮らしの課題解決支援サービス」として、医療健康情報のチームが岡町図書館を拠点としてすこやかプラザと協働したり、市立豊中病院の認定看護師を迎えたレクチャーを催すなど、専門知識を持つ方と協力することで市民に役立つ情報提供をしていく取り組みを継続している。全国各地の図書館でこういった地域課題解決の取り組みが行われているが、慶応大学からヒアリングを受け、西日本での取り組みの発表の場ということで、岡町図書館を会場に1月29日に研修会が行われる。ご報告をかねてこれら4点を配布させていただいた。

●委員長

今の報告について質問はあるか？

●委員

外部とつながって、非常に多様な取り組みに努力されているのが解り、これからも頑張っていたきたい。

●委員

少しずつ変わってほしいなとずっと希望してきたが、新しい局面を迎えているように感じた。図書館頑張ってください。

●委員

微細な提案で、別の図書館で夏休みにやっていた、子どもたちにカードを渡し読んだ本をそこに書く、そういうことをやっていた。私も過去に読んだ本の記憶が薄れていて読んだ本のリストが欲しいのでICTの活用に、図書館のサーバーに借りた本の記録があると思うが、それを個人がリストアップしてコメントできるようなスペースを作っていただいたらありがたい。これは費用のかかることでソフトも作らないといけないだろうが、どうだろうか？

●事務局

(図書館側では)読書履歴は個人情報に関わるので、返却と同時に解らない形になっている。しかし豊中市立図書館のHPにはマイライブラリという機能があり、そこには現在借りている本のデータを写してマイブックリストを作成することができる。それを個人のパソコンに落とし込んでいただくことで、そういう読書記録の作成も

できるようになっている。

●委員

やり方があるのか

●事務局

やり方について、実は先週の公民館で庄内図書館でも祭りに連携し、「大人のための図書館のお仕事体験ツアー in 庄内」を実施し、その中で市民の方にマイライブラリの使い方を体験していただいた。市民からもこういう機能があったのかという驚きの声もあったので、今までの PR を改め、市民また生徒たちにも学校図書館と連携しながら、ホームページの色々な機能を活用してもらおう努力をしていきたい。また、今後そういうことは必要だと思う。

●委員

マイライブラリに登録している利用者は何割くらいか？

●事務局

何割か把握していないが、そういう機能の PR には努めていきたい。

●委員長

色んな機能のガイドがきちっとしてればよいだろう。

他にご意見はないか？

●委員

たまたまテレビでみたが、毎年二桁利用者数が伸びている図書館が紹介されていた。一方、豊中市立図書館は利用者が減っている。いいこともされているが、どうしてもわたしは数字にこだわる。利用者増の目標数値を作っても良いのではないか。

●委員

豊中市立図書館の平成 25 年度図書購入費が北摂七市で最下位、箕面が市民一人当たり 339 円、豊中が 165 円。利用者の数にこだわった場合、資料の魅力が大きいと思うのでこれ以上図書購入費が下がらないことを希望する。

●委員長

財政難から、実は 1990 年代から減ってきているのが現状。去年の全国平均は一人当たり 230 円ぐらいだった。一番多いのが石川県の 650 円くらい、図書館の資料費は全国で格差がある。基本は資料費をどれだけ確保できるか、頑張っていたきたい。結果的に利用者数に反映してくるだろう。利用者は伸びているが、貸出数は伸びていない図書館も現実にある。そのあたりは本来の図書館の魅力を発揮していくのが大切だと思う。他にご自由に意見があれば。

ありがとうございました。

では、これをもって第二回豊中市立図書館協議会を閉会する。次回の協議会は来年 2 月後半を予定している。